

第2学年3組 道徳学習指導案

平成25年11月12日(火) 第5校時

児童数 男子14名女子13名 計27名

授業者 大川 仁美

1. 主題名 思い切って 内容項目1-(3) 勇気

資料名 「ぼく、よびに いって くる」(副読本)

2. 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

内容項目1-(3)「よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行う。」は、よいことあるいは正しいことについての確に判断し、勇気を持って主体的に取り組める児童を育てようとする内容項目である。

人はさまざまな場面や状況に応じて、よいことと悪いことを瞬時に判断し、その判断に従って行動することが求められる。また、周りの状況や他人の言動に左右されず、自分のよいと思った判断に基づいて進んで行動することが大切である。しかし、自分の都合のよい状況に置かれていると、悪いことに気がついて、そのまま見過ごしたり、周りの友達の言動に左右されたりして、正しく判断ができないことがある。これからの多様な社会で生きていくためには、人としてやってよいこと、やってはいけないことをしっかり区別したり、判断したりする力を身につけることが必要不可欠である。そこで、どんな状況においても、よいことと悪いことを明確に区別し、よいと判断したことは自分から進んで行えるように、低学年から指導していく必要がある。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、日直や給食当番、係の活動に進んで取り組み、クラスのために働くことに喜びを感じている素直な児童が多い。また、学習活動や生活の様々な場面で困っている友達がいて、心配して声をかけたり、助け合ったりすることができ、優しい気持ちをもって、友達と接することができる。

しかし、幼児期の自己中心性がまだ残り、友達のとった行動や言動に流されて、学校のきまりや遊びのルールを守れないことがあり、周りの友達に迷惑をかけてしまうことがある。理由を聞いてみると、「友達につられてやってしまった」だとか、「相手の都合を考えずにやってしまった」というケースが多く、悪いということが分かっていても、周りの状況や友達の言動や行動につられて、よいこと悪いことの正しい判断ができなかったという声をよく聞く。そこで、行ってよいこと、人間としてしてはならないことが区別できる力を養うとともに、よいと思ったことは遠慮しないで進んで行うことができるように励まし、指導をしていきたい。

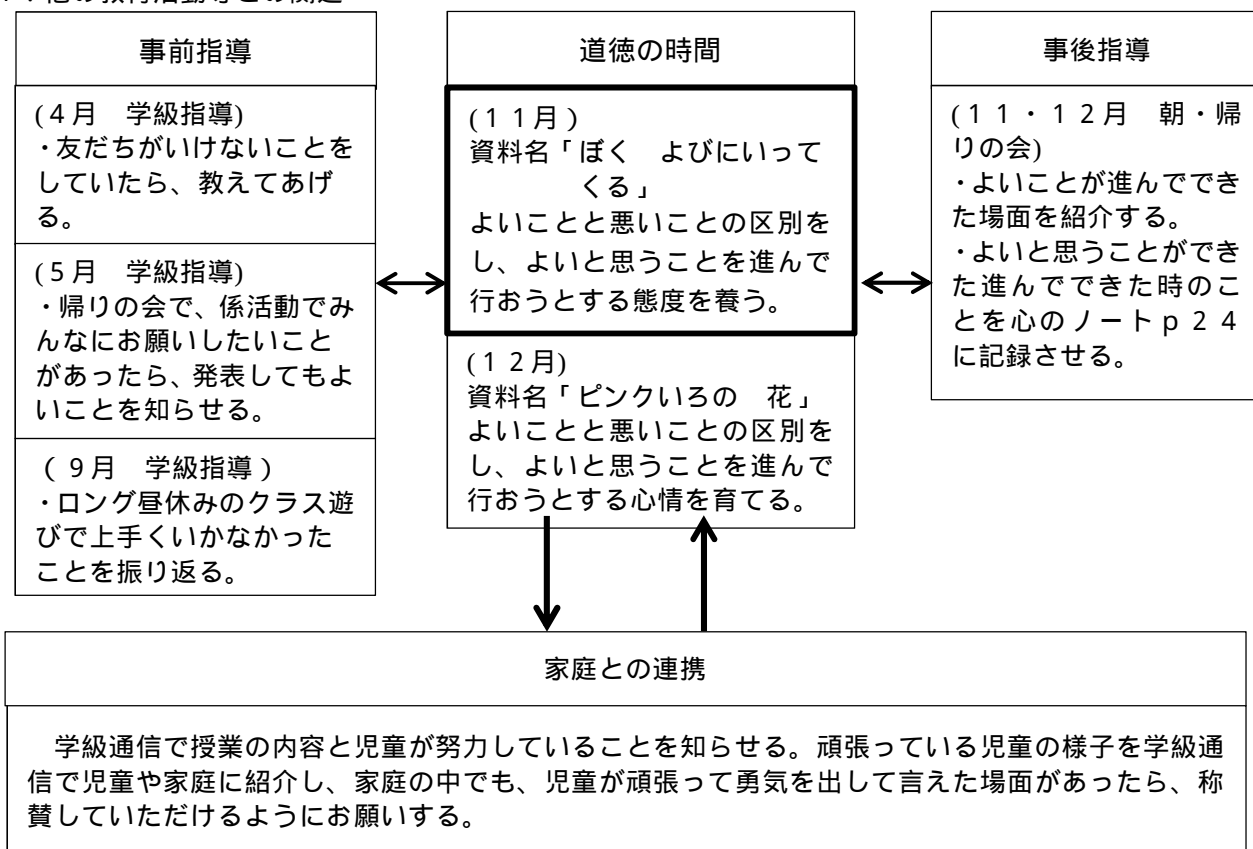
(3) 資料について

本資料は、たぬきたちがサッカーをしているところへ、ぼんたが遠くから走ってくる。しかし、数が半端になるという理由で、ぼんきちが「かくれるんだ」と言ったので、みんなで隠れてしまう。少し迷ったぼんすけは、しっぽを少し見せて石に化けるが、ぼんたは気づかずにいってしまう。みんなは再び遊び始めるが、ぼんすけは、ぼんたのことが気にかかり、思い切って「やっぱりぼんたも入れよう」と言う。ぼんきちににらまれても、もう一度同じことを言って走り出すぼんすけに、他のたぬきたちも自分のしたことに気づき、追いかけるという内容である。自分が良いと思ったことを思い切って言うぼんすけの気持ちに共感させ、進んで実践しようとする心情に結びつけたい。

3. 本時のねらい

よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行おうとする態度を養う。

4. 他の教育活動等との関連



5. 展開

	学習活動・主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点 評価の観点
導入	1. よくないことをしている場面を振り返って発表させる。 『ろうかを 走っている場面の絵』 - このような場面がありませんでしたか。 - 正しいと思っても注意できなかったことがありますませんでしたか。	- 悪いことだと分かっているけど、つい調子にのってやってしまった。 - 注意しようと思ったけど、できなかった。	- よくないことをしている場面の絵を見せ、自由に意見を言わせる。 - 正しいと思っても言えなかったこと的话题を提示し、ねらいとする価値への方向付けを行う。
展開	2. 資料について知る。 [主人公] ・ぼんすけ(主人公) [登場人物] ・ぼんきち(遊びのリーダー) ・ぼんた(後から来る友達) <条件・状況> たぬきたちがサッカーをしようとしているところへ、ぼんたが遠くから走ってくるが、数が半端になるので、隠れることになった。ぼんすけは、石に化けるが、ぼんたの気持ちを考えながらわざとしっぽを出してかくれる。		- 資料の登場人物、条件・状況を押さえ、資料の前半を範読する。(最初からぼんすけのかおがあつくなる場面まで) - 登場人物の条件・状況をつかみ、資料に興味をもつことができたか。(観察)

3. 資料「ぼく、よびにいつてくる」の「ぼんすけ」の気持ちを中心に話し合う。 (1) わざとしっぽを出して、急いで石に化けたぼんすけの気持ちはどんなだったでしょう。 (2) ぼんたのことが気になって仕方がないぼんすけはどんな気持ちだったでしょう。 (3) かおがあつくなった時、ぼんすけはどんなことを考えたのでしょうか。 (補助的な発問) ぼんすけは、勇気を出して、もう一度「なかまに入れようよ。」と言おうか、言わないか、心が揺れています。どちらの気持ちですか。 (4) ぼんたをよびに走り出したぼんすけは、どんなことを思ったのか。	・ ぼんたのことが気になるなあ。 ・ 気づいてくれるといいな。 ・ かくれてよかったのかな。 ・ ぼんきちの言うとおりにしているのかな。 ・ ぼんたも仲間に入れてあげたいな。 ・ ぼんすけがこわい。 ・ にらまれて嫌な気持ち。 ・ 言わなければよかった。 ・ ぼんたがかわいそう。 言えない ・ こわかったから、言えない。 ・ また、にらまれる。 迷っている ・ 言いたいけれど、にらまれてしまうのは嫌だ。 ・ 言いたいけれど、勇気を出して言えるかな。 言う ・ ぼんきちのやっていることはよくないよ。 ・ ぼんたも友達だから、仲間に入れてあげよう。 ・ 勇気を出して、正しいことを言おう。 ・ いっしょにサッカーをして遊ぼう。 ・ ぼんた、ごめんね。 ・ 勇気を出して「なかまに入れようよ。」と言えてよかった。 ・ みんなも来てくれてよかった。	・ 「数が半端になる」という言葉を押さえてから発問する。 ・ わざとしっぽを出して、石に化けたぼんすけの心の迷いとらえさせる。 ・ ぼんたのことが気になって仕方がないぼんすけの気持ちを考えさせる。 ・ かおが熱くなる時は、怒ったり、興奮したりしている場合であることに気づかせる。 ・ にらまれて興奮し、怒っているぼんすけの気持ちを十分とらえさせる。 ・ ぼんきちに、にらまれた後、もう一度「なかまに入れよう」と言うか、言えないかで葛藤するぼんすけの気持ちを深く考えさせる。 ・ 「言えない」のか、「言う」のか、または、「迷っている」のか、自分の気持ちに近いところで挙手させる。 ・ どうしてそう思ったのか、理由も言わせる。 ・ ぼんすけがぼんたをに意見する場面を役割演技させ、その時のぼんすけの心の動きをとらえさせる。 ・ 資料の後半を範読する。(ぼんすけがもう一度大きな声で言った場面から最後まで) ・ 勇気を出して言ってよかったという気持ちに共感させる。よいと思ったことを書き、勇気を出して行動したぼんすけの気持ちに共感できたか。 (観察・発言)
--	--	--

	4．勇気を出して言えたぼんすけにお手紙を書きましょう。	・ぼんすけくん、勇気を出して、がんばって言えてえなかったね。 ・ぼくだったら、言えるかな。 ・ぼんすけくんみたいに、よいと思ったことをちゃんとと言えるといいな。	・迷いを乗り越えて、よいことを進んでできたぼんすけの行動のすばらしさに気づかせ、児童の思いを自由に表現させる。 - よいことを進んで行おうとする気持ちを高めることができたか。(ワークシート・発言)
終末	5．心のノートp24～p25を聞く。		・よいこと悪いことを区別し、よいことを進んでできると、みんなが笑顔で過ごせることに気づかせる。

6．評価

- ・主人公「ぼんすけ」の気持ちになりきって考え、意欲的に発表することができたか。
- ・よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと大切さに気づくことができたか。
- ・児童のつぶやきや発表を大切にし、児童の思考を深めることができたか。
- ・ねらいとする価値にせまるような発問、資料の掲示を工夫することができたか。

7．板書計画

